

洛友會々報

京都市左京区吉田
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会



第九回洛友会総会
東京芝高輪 光輪閣にて

チュウリツヒにて

昭三 高津 章
(株式会社 安川電機製作所)

前略 チュウリツヒも今や春たけなわの感じ、リラやマロニエの花が咲き出しています。この前は名簿を御送り頂き厚く御礼申し上げます。その折、近況を報告せよとの仰せでしたが、いろいろ多忙にまぎれ長らく御無沙汰に打過ぎましたことを心から御詫び申し上げます。昨年当地に参りましてから諸先生方など心ならずも御無沙汰に打過ぎ申訳ありません。次に当地にて感じた事など書いてみましたので貴会報の一隅にでも載せて頂ければ幸に存じます。

最初二年間滞在の予定で参りましたが、急に予定が変更され今年の夏には帰国することになりました。残る数ヶ月の滞在を有効に過ごしたいものと念じています。

振返って見ると月日の経つのは早いもので、勤務先の安川電機から会社の技術提携先であるブラウンボベリ社での技術習得及び連絡業務を主体とするチュウリツヒ駐在員を命ぜられ、昨年春スイスに到着してから早くも一年を過ぎてしまいました。この間全くの筆不精で諸先生や同窓諸兄には全く御無沙汰致し何とも申訳ありません。また先日は洛友会よりわざわざ名簿を御送り頂き遙かに吉田山麓の赤煉瓦の教室を思い出し

ました。その折消息を連絡せよとの仰せで、この機会に本会報の活字を借りて当地で感じた事など報告し、平素御無沙汰のお詫びをしようという甚だ横着な考えを起した次第です。一年余りもチュウリツヒに居ると、こちらでの生活にも慣れ、特に外国旅行などから帰って来ると勝手に気が安さから、まるで我が家へ帰った様な何かホッとした安心感を感じます。チュウリツヒは周辺の町にスルツアープラウンボベリなどの工場を持ちスイスに於ける洞工業の中心都市であるといわれていますが、活況ある町というよりもむしろ落着いた観光都市を感じさせます。チュウリツヒに限らずスイス全土がそう云々。太陽光園としての色彩を持つていることは御承知の通りです。一年中白雪を頂いたアルプスの山々、山の谷間に残る千古の氷河やまた各地に点在する美しい青い湖は確かにヨーロッパの他の国では見られない景観ですし、更に空地のすべてを擁う緑の牧草地やチリチリ落ちていない街路、手入れの行き届いた花壇などに世界の公園といわれるだけの美しさを維持しています。ヨーロッパの他の国からチュウリツヒに入って感ずることは家並みは小さく堂々とした感じは無いにしてもその

清潔さです。街路にしても人が紙くズを捨てない訳ではなく早朝などに市の清掃人がしばしば街路を掃除して廻るたまものですし、町の花壇もしょっちゅう新しい花と植え替えられています。これもスイス人の潔癖と勤勉の表われでしょう。こういった事が個人の趣味でなく全部市の規模で行われていることは大したものですね。勿論個人も概してきちょうめんでまた草花好きで殆んどの家が室内に沢山の草花を持ちこんでおり夏になると家々の窓はアオイの花で飾られます。

チュウリツヒから一泊行程でアルプスのユングフラウへの登山はスイスを訪れる人の是非試みるべきコースとなっています。というのも海拔三千五百米のユングフラウヨッポ登山電車で労せずして上れ、アルプスの景観をほしほしにまにまにすることが出来るからです。特にこの登山電車の終りは約十キロに亘りアルプスの岩山の下を掘り抜いたトンネルで単に観光のみの目的で(もっとも冬季はスキー客を乗せて上るのに役立っています)大変な工事をしたものです。ユングフラウヨッポは高い山だけに何時でも天気には恵まれるとは限らず特に夏季には平地は快晴でも山頂は雲にかくれ、上って見るとガスがかかり、場合によっては吹雪といった日の方がむしろ多いので折角高い料金を払って上ったお客を失望させない様に氷河の中に掘り抜いた氷のトンネルや彫刻を準備しているという考慮もなされています。

またスイス国中に通じている自動車道路はドイツのアウトバーンの様な壮大な規模はありませんがよく整備され、特にアルプスの峠々を越える山道はよくもこんな山の中に道を作ったものだと思ひさせられます。勿論地形のために曲りくねった坂道ですが立派に舗装され自動車による旅行を快適なものにしています。尤も標高二千米を超えるブルカパス、グリムゼルパス等の峠道は冬は雪で閉ざれ夏季七月から四月月間しか走れません、この時季には流石の山道もヨーロッパ各国やアメリカからの車の行列が出来るといふ盛況です。

また各地には到る所無数のザイルバインがあり手軽に山に登れる仕組みで、山があるのみで観光ならずそれ相応の完備した設備が十分に施されているのは全く感心させられます。それにしても観光による収入は年々の収入の二或いは三位で重工業製品の輸出が常に輸出の首位を占めているのです。

天然資源の乏しい否皆無といつていいこの国でこの様に重工業が発達し、これによって高い生活水準を維持していることは我々にとって一つの驚異です。これはここ百年余りスイスは中立を守って戦争に關せず無駄な消耗をしなかつたのみならず、むしろこれを利用して来た事も大きい原因でしょう。が更にきちょうめんにコツコツと働き蓄えるスイス気質、この乏しさを認識し営々と技術の蓄積を行つた勤勉さも見逃されません。私の行つていたパーデンのブラウンボペリーの工場では現在週五日制アルバイトの勤務時間は

午前六時四十分から午後五時二十分迄、一時間の昼休みと午前中十分の休憩時間を除いて実働九時間ですが、この勤務時間中は実によく働いています。尤も仕事振りは実にゆうゆうたるもので日本式に「特急」で仕事を依頼してもなかなか早く出来上りませんが、それだけに完成されたものは実に完全なものになっています。製品の八〇％は輸出されるものなので製品の品質を第一とする考え方が徹底している様です。例えばトランジスターを電動応用の制御装置に採用するにしても幾度か社内での試験を繰返しながらトランジスター自体が安定していかない故にこれを使用した製品の販売を差し控えるなど、なかなか保守的ですが反面確実さがあり、一つの行き方と考へられます。この様に工業技術が確立されれば、特に近くに資材の供給源のあるヨーロッパでは天然資源の乏しさは余り問題ではなく、資源であちこちの優秀な材料を選択出来るという利点も生れて来ます。問題は無形の技術なり製造法という訳で斯る生産技術が尊重され技術保護の考えは全般に浸透されています。例えばスイスで生産される小型時計は世界の生産の半数近く占めているのですが、この時計を作る為の精密工作機は単にスイス国内用のみ生産されそのためスイス時計工業の優位は変わらぬだろうといわれています。

特にチューリッヒの町にはパリやドイツの町に見られる様な華やかなキヤバレーの様な遊び場はありません。パリなどでビールやワインを静かに傾ける程度で、これも十二時になるとボリツアイ・ストウンデで追い出され、その後は町全体がシーンと静まり返ってしまいます。こちらの人にとってはこれは当然の如くで「フランス人を見給え彼等はワインを飲んで朝の三時四時迄遊んで廻る、だから今の様に登乏しているのだ」とスイス人の勤勉を大いに誇りにしています。

スイスに来て仕事をすると一番の悩みは何といつても言葉の問題です。御承知かと思いますがスイスの国語は各地で使用される言葉からドイツ語、フランス語、イタリア語の三ヶ国語が法律的に認められていますが、チューリッヒと近辺では主としてドイツ語が使用されます。ドイツ語といつてもこちらの人々が普通使うのは方言のスイスジャーマンでこれはドイツ語の一方言とはいふものの私達の間で標準ドイツ語とは似ても似つかぬものでドイツ人が聞いても判らないというしるものです。しかもこのスイスジャーマンもスイスの各都市や州によって少しずつ異つていくという話です。しかも当地の人はこのスイスジャーマンに非常な愛着を持っておりお互い同志の会話はすべてこれを使います。「スイス人はドイツに対して余り良い感情を持っておらず、従つてたとえ標準ドイツ語を知つてもこれを使用しない」とうがった説明をするスイス人もいますが、標準ドイツ語の方はこちらではシュプリトドイツ語と称

し(学校で習うドイツ語、或は筆記用のドイツ語とも訳せまじょうか)何か改まった感じで、子供の時から話し慣れたスイスジャーマンほど気軽でなく、これで話したのはお互いの近親感が出ないのです。兎に角スイスジャーマンは本場の国語といった感じを持っており、ラジオ放送もスイスジャーマンによる部分が大変な人気です、またスイスジャーマンで書かれた雑誌や新聞広告が目につきます。

こちらでは英語はまだ一般的ではありません。案内所、ホテル、商店など旅行者に接する人々や、工場でも主脳部や販売関係の人達は流石に英語も非常に達者で、一般的な旅行や話合には英語で不自由を感じず、こととあらまが、工場でも設計や現場になると英語はまず通せず、ドイツ語に頼る他ありません。こちらの人は勿論標準ドイツ語を一応習っている、工場で討論する場合も私達に対しては標準ドイツ語で受け答えしてくれませんが、お互い同志の方はさっぱり解らずもどかしく感じます。

例えばレストランなどでボーイがお菓子をパティセリーといつて売って歩きますので、ああいうお菓子はパティセリーというんだなと覚え、いざ何か書く段になって綴りを見るためにドイツ語の辞書をめくる一向に出て来ないといつた様な具合です。

スイス人はこの様にして既に日常会話で色々な言葉を使いますし、又義務教育で三つの国語の内二つを習うことになっています。更に上級の学校では別の言葉を習うといつた具合で、又外国語といつても似た様なものだからスイス人は一般になかなか語学が上手です。こちらに着任した早々の頃、ブラウンボペリー社の工場で設計室にかかつて来た電話をとつて、しどろもどろのドイツ語で応対している内に先方から「君のムッターシュネブラッへは何か」と聞かれたことがありました。先方の積りでは向うは数ヶ国語が出来るので、こちらの手下手なドイツ語よりも話が通ずると考えたのでしよう。尤もこちらが「日本語」と答えて先方は一寸困りましたが、まず、こちらでは一寸した人になると数ヶ国語が話せるというのが常識の様です。

こんな訳でスイスでは英独仏伊の何れか一ヶ国語さえ知つておれば、まず不自由しないといふ他の国では見られない便利さも生れて来ます。これが観光国として全世界からの人を集める上に極めて有利であることや、また工業製品の輸出に大きい役割を果している事は当然です。

スイスの面積から行くと、九州よ

り一寸狭い位、それに人口は五二四万人ですから、これで年々拡大される工業生産を行うには、どうしても人口不足で、ブラウンボペリーの工場にも沢山の外国人が採用されています。現在私の席を置いている設計室を見廻しても三五人位の課にドイツ、イタリア、オーストリーを始めトルコ、インドに到る迄十ヶ国の国籍の人がいるという賑やかさです。また工場の現場には沢山のイタリア人のアルバイターが居り、中にはろくにドイツ語も喋れないのが支障なく仕事をしています。こういった事も言葉の国スuisなればこそ出来る事でしょう。流石に日本人はいない様で、時々研究所あたりから電気学会雑誌の論文の独訳を頼まれたり、また日本人の来訪客の通訳を頼まれたりなどもしています。

前に述べたスイスの人口過少は工場にとっては、一つの問題で工具の不足で製品の生産が思うに任せぬとか、或いはエンジンヤの求人広告を出してもなかなか乗らぬなどの不満をよく聞きます。人口過剰で問題の多い日本から来てみると、一寸奇異な感じを受け、人口が少なければ少ないでまた問題もあるものだと、とんだ所に感心している次です。以上、当地について感じた事などまともにもなく書きましたが、なお残る滞在期間に有益な見聞を広めたものと念願しています。

(A. Takatsu
b/Dr. Brauchlin, Streulstrasse
31,
Zürich7, Switzerland)

才九回洛友会総会の記

五月十四日(土)午後三時より新緑薫る芝高輪の光輪閣において才九回洛友会総会が出席名一六六名におよぶ盛會裡に催された。

まづ鳥養会長の本会の発祥の地ともいふべき東京においていつも盛大な会合をもつことの喜びを述べ益々

五月十四日(土)午後三時より新緑薫る芝高輪の光輪閣において才九回洛友会総会が出席名一六六名におよぶ盛會裡に催された。

まづ鳥養会長の本会の発祥の地ともいふべき東京においていつも盛大な会合をもつことの喜びを述べ益々

の会費を年々五〇〇円とする件も異議なく可決せられた。

才四号議案 役員選挙の件については、議長指令による詮衡委員五名をもって詮衡せよとの動議あり、これが可決せられて、詮衡委員に長島正隆、大西冬蔵、高見祥平、松本弘、山村忠行の五名が指令せられた。

委員長長島正隆氏より慎重審議の

結果、役員は凡て重任とし、新たに副会長に林重憲氏を推薦することに なったと報告し、議長これを議場に諮り満場拍手裡に可決した。

なお、会長より幹事はすべて重任として委嘱された。

これにて議事を終り、庭園の周囲にしつらえたる天ぶら、お寿司、焼鳥、おでん、しるこ等の模擬店に舌鼓を鳴らし、お互に健康を祝して乾杯しつつ歓談に時を移した。

宴酣にして奇術および西川流舞踊団の民謡踊は一段の興をそえた。

大先輩の国友末蔵氏(明三九卒)が恰も八十歳の祝賀会出席のため遙々上京せられ、この総会にかくしゃくたる姿を現はされたことは本總會の喜びとする所で、同氏の発声のもとに洛友会の万歳を三唱した。

なお、光輪閣のすばらしい庭の夜景をたのしみつつ午後七時過ぎに散会した。

昭和35年度收支予算

収入の部		予算額	前年度決算額
会費		700,000	558,900
本年度分		600,000	449,600
過年度分		100,000	109,300
預金利子		30,000	30,004
電気講習所名簿代		140,000	148,000
雑収入		10,000	637,280
繰越金		1,101,913	628,135
合計		1,981,913	2,002,619

支出の部		予算額	前年度決算額
刊行物費		480,000	562,487
名簿編集費		20,000	22,685
同印刷費		250,000	364,000
同発送費		60,000	77,198
会報編集費		10,000	1,826
同印刷費		60,000	32,860
同発送費		80,000	63,918
諸費		396,000	286,819
備品費		10,000	3,500
通信費		10,000	8,120
会費		10,000	3,500
総集會費		100,000	60,816
金掛費		50,000	46,083
旅費		96,000	60,000
120,000		104,800	
臨時會補助費		40,000	51,400
懇話會補助費		40,000	51,400
予備費		1,065,913	1,101,913
予備費		1,065,913	1,101,913
合計		1,981,913	2,002,619

昭和34年度收支決算

収入の部		予算額	決算額
会費		700,000	558,900
本年度分		600,000	449,600
過年度分		100,000	109,300
預金利子		30,000	30,004
電気講習所名簿代		0	148,300
雑収入		200,000	637,280
繰越金		628,135	628,135
合計		1,558,135	2,002,619

支出の部		予算額	決算額
刊行物費		470,000	562,487
名簿編集費		15,000	22,685
同印刷費		250,000	364,000
同発送費		60,000	77,198
会報編集費		5,000	1,826
同印刷費		60,000	32,860
同発送費		80,000	63,918
諸費		300,000	286,819
備品費		10,000	3,500
通信費		10,000	8,120
會費		10,000	3,500
総集會費		60,000	60,816
金掛費		50,000	46,083
旅費		60,000	60,000
100,000		104,800	
臨時會補助費		40,000	51,400
懇話會補助費		40,000	51,400
予備費		748,135	1,101,913
予備費		748,135	1,101,913
合計		1,558,135	2,002,619

預金および現金

定期預金	500,000	住友銀行京都支店
普通預金	592,468	才一銀行百万辺支店 住友銀行京都支店
当座預金	7,720	才一銀行百万辺支店
振替貯金	356	
現金	1,369	
合計	1,101,913	

出席者氏名

(〇印夫人同伴)

明三七	多田 耕象	三	小池 恒久
三九	国友 末藏	四	久野 清
四〇	宮井 誠吉	五	伊達 達
四一	宝来勇四郎	六	真壁 昌一
四二	佐藤 穂徳	七	上西 亮二
四三	古田 正康	八	石堂 園雄
四四	鳥養利三郎	九	吉岡 俊男
四五	長島 正隆	一〇	高原 正也
四六	真崎 尚忠	一一	五十嵐正男
四七	中谷 潔	一二	酒井 長武
四八	大西 冬藏	一三	石川 弘文
四九	間崎 龍夫	一四	喜多村善一
五〇	菅 祥平	一五	〇香山日出雄
五一	〇菅 琴二	一六	小林 大祐
五二	西村 辨三	一七	河合 泰治
五三	榊原 吉三	一八	清野 武
五四	島居金次郎	一九	岩元 巖
五五	〇福島秀次郎	二〇	〇水野 正光
五六	庄野 誠一	二一	松尾 三郎
五七	大内 誠三	二二	〇高崎 勲
五八	高田太三郎	二三	相本 一男
五九	高島 正一	二四	西村正太郎
六〇	滝本 浩	二五	天野 寛徳
六一	樋口竹太郎	二六	小田 敏彦
六二	岡本 一郎	二七	木村 小一
六三	沢山 義一	二八	日下部悦二
六四	小宮 義和	二九	木村 清治
六五	奥原 芳登	三〇	服部 周三
六六	〇答院規矩雄	三一	松尾 哲男
六七	太田 音吉	三二	〇岡本 明
六八	岩本 種昌	三三	室賀 弘
六九	林 重憲	三四	〇佐藤 和夫
七〇	文川 有	三五	白杉 茂
七一		三六	中村 清
七二		三七	清 高橋 宏
七三		三八	〇佐藤 和夫
七四		三九	白杉 茂
七五		四〇	中村 清
七六		四一	清 高橋 宏
七七		四二	〇佐藤 和夫
七八		四三	白杉 茂
七九		四四	中村 清
八〇		四五	清 高橋 宏
八一		四六	〇佐藤 和夫
八二		四七	白杉 茂
八三		四八	中村 清
八四		四九	清 高橋 宏
八五		五〇	〇佐藤 和夫
八六		五一	白杉 茂
八七		五二	中村 清
八八		五三	清 高橋 宏
八九		五四	〇佐藤 和夫
九〇		五五	白杉 茂
九一		五六	中村 清
九二		五七	清 高橋 宏
九三		五八	〇佐藤 和夫
九四		五九	白杉 茂
九五		六〇	中村 清
九六		六一	清 高橋 宏
九七		六二	〇佐藤 和夫
九八		六三	白杉 茂
九九		六四	中村 清
一〇〇		六五	清 高橋 宏

昭二	中村 清	昭三	田中 要
一五	松尾 哲男	昭三	田中 要
一四	木村 清治	昭三	田中 要
一三	小田 敏彦	昭三	田中 要
一二	相本 一男	昭三	田中 要
一一	西村正太郎	昭三	田中 要
一〇	天野 寛徳	昭三	田中 要
九	岩元 巖	昭三	田中 要
八	水野 正光	昭三	田中 要
七	松尾 三郎	昭三	田中 要
六	高崎 勲	昭三	田中 要
五	相本 一男	昭三	田中 要
四	西村正太郎	昭三	田中 要
三	天野 寛徳	昭三	田中 要
二	岩元 巖	昭三	田中 要
一	水野 正光	昭三	田中 要

洛友会東京支部総会

本年度の総会並に懇親会は本部と合同にて催すこととなり、本部総会に先立って午後三時半より総会を開催した。

先づ富永支部長の開会の挨拶について榎木幹事より昭和三十四年度の事業並に決算報告および昭和三十五年の事業予算の説明があり、満場拍手裡に可決した。

ついで別記支部新入会員の紹介あり、なお、東京支部においては趣味の会として読書会、ゴルフ会、麻雀会および魚釣会がありますが、その開会に当りましては都度御通知いたしますから同好の士は奮って御参加下さい。

洛友会東京支部ゴルフ例会

本例会も盛會裡に回を重ね、才九回は去る三月八日快晴の相模カントリークラブにて開催された。

当日の優勝者三谷兄は堂々実力者の貫録を示されたが、続く土方、堀堀内兄一八と一七と夫々決定した。

氏名	アウト	イン	計	ネット	順位		
三谷	45	48	47	140	19.2	120.8	1
土方	48	49	47	144	22.8	121.2	2
堀内	47	47	49	143	21.6	121.4	3
蒲生	43	47	52	142	19.2	122.8	4
池内	43	44	48	135	9.6	125.4	5
白井	52	56	54	162	36	126.0	6
松本	44	57	48	149	22.8	126.2	7
北爪	54	55	54	163	36	127.0	8
太田	53	53	50	156	28.8	127.2	9
松井	51	50	46	147	19.2	127.8	10
東井	52	49	57	158	30	128.0	11
田井	56	50	55	161	32.4	128.6	12
石堂	53	52	50	155	24	131.0	13
川原	53	53	54	160	26.4	133.6	14
奥原	55	52	49	156	21.6	134.4	15
木野	59	63	55	177	34.8	142.2	V.B.
相久	61	63	59	183	36	147.0	17

以上

訃音

川村 桑民君(明四四)三月十九日 東京電気工事株式会社監査役

鈴木徳之助君(明四二)三月廿四日 菊地 平司君(明四一)四月廿六日 電々公社長野電話局長

以上三君は有為の材を懐きながら御逝去になりました。謹んで哀悼の意を表します。

お願 い 昭和三十五年洛友会費はお忘れなく別葉振替用紙にてお払い込み下さい。なお、名簿編集に必要につき勤務先又は現住所および電話番号などの変更のあった場合は御通知下さい。